

リベラ (Libella) はラテン語でトンボの意味です。あおぞら財団はトンボが飛び交うまちの再生を願って活動しています。

リベラ

2016.2
139
号

リベラ

2016.2
139
号

発行所:公益財団法人公害地域再生センター(あおぞら財団)
〒555-0013 大阪市西淀川区千舟1-1-1 あおぞらビル4階

特集:西淀川の多文化を楽しもう!

- 大変な子育ても、世界が繋がれば楽しい! 小田和香織...1
- 食べ物でつながる! ワールド・クッキング...3
- 西淀川で子育て中! 辻内メイさんインタビュー...4
- 地域の将来を見据えた多文化のまちづくりを 佐藤千佳...5

忙中一筆 藤野高典...7

中島大水道まち歩きマップ完成!!...8

御幣島がアートにあふれる2日間 みてアート2015...9

ぶらりとゆるりと西淀川めぐり ありがとうみてアート編...10

西淀川記憶あつめ隊:中谷克昭さん...11

よそものが釜石に行く...12

見えない空気を見てみよう! ~「ソラダス2016」調査に参加しませんか?...13

あおぞらイコバでランチはいかが? あおぞら野菜市でのランチプレートです。

あおぞらフォトギャラリー



まちづくり
ゴゴゴゴ。タンDEM自転車池田まで行く途中、伊丹空港近くで離陸する飛行機を見上げる図。タンDEM自転車サイクリング〜猪名川&池田でラーメン! ?〜(2015.12.6)



環境保健
呼吸介助の実技中。医療従事者向け呼吸ケア・リハビリテーション教室にて。(2015.12.19)

お知らせ



●子ども自転車教室 〜伊丹空港と田能遺跡をめぐる 猪名川サイクリング!〜

- 日時:2016年3月26日(土)9時30分~16時00分(受付は9時15分)
- 対象:小学校3年生~6年生
- 集合:西淀公園(大阪市西淀川区大和田1-1)
- 解散:あおぞら財団(大阪市西淀川区千舟1-1-1)
- 参加費:500円(弁当・ドリンク、活動保険含む)当日集めます。
- 内容:第1部=安全教室、第2部=まちめぐりポタリング(往復約20キロ)西淀公園~神崎川~猪名川~田能資料館~伊丹空港
- 申込:名前/性別/学校名/学年/保護者名/連絡先(住所・電話番号・FAX・メールアドレス)をあおぞら財団までお知らせください。
- 主催:一般社団法人 コミュニティマネジメント協会(CMA)
- 協力:あおぞら財団



資料館
第3回公害資料館連携フォーラムin四日市を開催しました。参加者は200名でした。(2015.12.11~13)

あおぞら財団とは

〒555-0013 大阪市西淀川区千舟1-1-1あおぞらビル4階
(TEL)06-6475-8885 (FAX)06-6478-5885
電子メール:webmaster@aozora.or.jp http://aozora.or.jp/

1960年代から問題となった大気汚染公害によって、多くの人が健康被害を受けました。その責任を問う西淀川公害裁判(1978~1998)では公害患者が勝利しました。患者は「手渡したいのは青い空」を願い、裁判の和解金の一部を使って1996年にまちづくり組織・あおぞら財団を立ち上げました。まちづくり・資料館・環境学習・公害患者の保健・国際交流の事業を行い、持続可能な地域づくりに取り組んでいます。

あおぞらビル

- [1F]地域交流スペース「あおぞらイコバ」**
会議、ギャラリー、コンサート、上映会などにご利用いただけます。
午前:1,000円/午後:1,300円/夜間:1,300円/全日:3,000円
- [5F]西淀川・公害と環境資料館(エコミュージズ)**
西淀川公害や環境について、地域の歴史などが知りたい人はぜひお越しください。
開館日 月曜日と金曜日(10:00~17:00)/要事前電話予約
●いずれも、予約・お問い合わせは4F事務所へ

会員・寄附募集

- あおぞら財団への寄附や賛助会費は、税制上の優遇措置があります。
- 賛助会員** 会員の方には機関紙「リベラ」などをお送りします。
【年会費】個人:年一口5,000円、学生:年一口2,000円、法人・団体:年一口10,000円
- 会費・寄附の振込先**
*郵便振替口座 00960-9-124893 加入者名:あおぞら財団
*三菱東京UFJ銀行 歌島橋支店 普通 3764689
口座名義:あおぞら財団賛助会員



に～よんステーションからの出前授業で、同じ絵本を多言語で小さい子どもにも読み聞かせする小学生たち。
日本語、英語、スペイン語で順番に読んでくれました(2015.12.20、出来島小学校にて)

の中で困っている事は？」という質問が出たのですが、中国の方は笑顔で「ない！」と答えられました。ところが通訳者を交えスタッフが再度質問をすると、ものすごい勢いで中国語で話し始めてくれました。これまでの日本での暮らしの中で「話しても言葉が通じないから話さない」という気持ちになっておられたようです。このときは母国語での会話に気持ちがほぐれて、いろいろお話ししてもらいました。スタッフのKさんは、「多国籍の人は学校から配布される案内プリントが読めないことが

西淀川の多文化を楽しもう!



特集

西淀川区は昔から移住して来る人の多い地域です。高度経済成長期は四国や九州から働きに来られた方が多かったのですが、最近は国を越えて移住される方が増えています。いまではなんと132カ国の外国籍住民がいるのです(2014年、大阪市民局調べ)。いろいろな国のルーツを持った人たちと西淀川で暮らしていこうと、交流活動が広がっています。今回の特集では、西淀川で営まれている多文化な暮らしの様子をご紹介します。(乗)

大変な子育ても、世界がつながれば楽しい!

NPO法人にしよだにこネット 小田和 香織

「異なる文化の中で子育てをされている方が、日頃困っていることを話せるように」「この多文化交流日をきっかけに、外国籍の方々が日常的に「に～よんステーション」を利用する機会につながるように」「主催者側から一方的に進めるのではなく、参加者が主体的に発信できるようにしていきたい」という思いを軸に、活動を進めてきました。活動は、にこネットのスタッフ6人と、多文化共生センター大阪の佐藤さんの7人でミーティングに、活動を進めてきました。



「多文化交流の日」以外にもに～よんステーションに自由に遊びにきてもらえるよう「に～よんステーションで遊ぼう!」をテーマにしました(2015.5.13) 通常のに～よんステーションで実施している手遊びなどを一緒に楽しみました。

「多文化交流をすすめる中でわかってきたことがあります。例えば民族衣装をメインテーマに開催した日、講師から衣装説明を受けた後、意見交流会になりました。そのとき参加者から「日本での生活



日本の夏!をテーマに浴衣を着て盆踊りを体験(2015.7.8)

のに、なぜ来られないのかな?」と残念に思っていたスタッフがいいたこともあり、2012年3月から西淀川区役所内にある子育て親子の自由交流の場「に～よんステーション」にて、主に未就園児の子育て中の外国籍の方々と交流する「TABUNKA(多文化交流)」をはじめました。



当日の流れがわかるように掲示を工夫。外国の絵本をたくさん並べ、子どもたちが手にとれるようにしました。(2015.7.8)

「なんやそれ!?プリントなんか、子どもは何枚ももらってくるのに、その内容がわからないなんて…」とショックを受けたそうです。

「私がしゃべれるのは日本語だけだし、海外へ行ったことではなく、苦手意識があるので、そんな私が多文化の活動に入ってから、よくお話しするようになった一組の親子さんがいます。その親子さんと、道端ですれ違いきざまに『お天気がいいねー!』と会話し自転車走り去る…という事がありました。その瞬間「コレや!」とひらめきのような物があつたの

です。すれ違い様の、ちよつとした挨拶や会話は日本人同士なら普段からしていること。それが、日本人や外国人関係なく、出来るようになる。そういう社会にならなかなーと思っ



いろいろな国の民族衣装を着てみよう!という企画(2015.9.9)。中国の踊りも披露していただきました。

分の国と相手の国について話すのはなんて興味深いらうと思いました。にこネットの多文化交流の講座では、日本語だけでなく英語でもコミュニケーションをとることが難しい外国籍の方との関わりも多くなくなりました。そのため、やさしい日本語でコミュニケーションをとる方法も実践していきます。日本語を使って、でも相手に配慮を持って…私にとっては

初、それらの質問に答えられず、「生まれてこれまで住んできた国のことなのに…」と、自分のバックグラウンドの大切さがよくわかりました。二度目は8ヶ月カナダに住んだのですが、その時は「日本である私」としてアルバイトやボランティア活動などをして過ごしました。出会ったいろいろなバックグラウンドを持つ人と、自分



リーフレットも多言語で用意されています



食べ物でつながる! ワールド・クッキング

他の国ではどんな食べ物を食べてるのかな?
西淀川区多文化交流事業「ワールドクッキング」では、
食べ物を通しているんな出会いが生まれています。



ブリガティロ
コンデンスミルク、ココアパウダー、バターを混ぜ合わせ丸くしたチョコレート菓子です。

バステウづくりの様子
餃子の皮で、トマト、ハム、チーズ、オレガノを包んで揚げます。

2015年12月2日開催
この日はブラジルの
パースデー料理づくりに挑戦しました!
誕生日会のように豪華に飾りつけた会場で、
まずは栄養士さんのお話を伺ってから、
ブラジル風揚げ餃子「バステウ」と
ブラジルの誕生日には
欠かせないお菓子「ブリガティロ」を
つくりました。



スリランカ料理ツナのカトウレット
～魚のコロッケ～

に～よんステーションの多文化イベント「ちょこっとcooking」でつくった料理もご紹介! レシピは、西淀川区子育てまるごと情報「COO」に掲載されています。(西淀川区役所HPからレシピの掲載されたバックナンバーを見ることができます。)



フィリピン料理トゥロン～バナナの春巻き～

メイさんがつくったフィリピンで食べるクリスマス料理「メヌド (menudo)」もご紹介。
豚肉、人参、ジャガイモ、パプリカ、ローレル、うずら卵をブラックペッパー、塩、醤油、オイスターソース、トマトソースで炒めます。味はイタリアンテイストです。



メイさん一家のクリスマスの食卓



完成したデコレーション寿司



お豆腐崩さず入れるのって難しい～



錦糸卵だから細く切ってね

2016年1月16日開催
今回、みなさんが
挑戦していたのは、
「デコレーション寿司づくり」!
「わかめのすまし汁」は
だしからとりました



どうしてもうまく切れないなあ



かわいく
美味しそうにできました!



「え?あのスーパーでいつも買い物してるの?!」
ご近所さんとわかって連絡先交換



2005年にフィリピンから日本に来て、働きながら日本語学校に通いましたが、職場と家の往復で友達はあまりできませんでした。そんな中、将和さんと出会い2011年に結婚。2013年には賢司が生まれました。
はじめての子ども、はじめての子育てでしたが、日本に友達は少なく、周りには頼れる家族もいないのでとても不安でした。例えば子どもが病気になったときはとても困りました。小児科では私が初めて聞くような医学用語で話されるからです。夫と一緒にいてくれると訳してくれるので助かりますが、夫も仕事で忙しいので、できれば自分でなんとかしたいと思いました。
「西淀川区 子ども・子育てプラザ」や、に～よんステーションに出会って、祈りが届いたような感覚でした。ここを訪れ、他のママたちの笑顔を見ると安心します。
息子がいつもと違う環境で周りの子どもたちと仲良くしているのを見ると、とてもうれしいです。この場所は彼が早い段階でふたつの文化と言語に適応できる場として役立っています。
みんなが暖かく迎えてくれて、困ったときに相談できる友達ができて感謝しています。スーパーマーケットなどでお母さんたちと偶然会うたびに手を振って「こんにちは」と挨拶をしてくれるので感激します。子どもたちで遊ぶように家に招待してくれる人もいます。今では母親として自信もつきました。
私のような外国人の母親にとって、こんなに役立つ機会を与えてくれる西淀川区役所にとっても感謝しています。

西淀川で子育て中!
辻内メイさんインタビュー

西淀川の多文化を楽しもう!



地域の将来を見据えた 多文化共生のまちづくりを!

多文化共生センター大阪
佐藤 千佳

外国人の親をもつ子どもたち のかかえる課題

あるブラジル、ペルー出身者が市内で最も多い地域です。西淀川区に複数ある食品加工工場に外国人が多く就労しているのです。当センターでは大阪市西淀川区を対象地域として2年前より独自に外国人世帯の調査を実施しています。57組の世帯のうち、日本人配偶者をもつ世帯は4組しかおらず、日本社会との接点が高くなりません。また母子家庭が57組中14組で25%にも上りました。さらに乳幼児をもつ世帯は23組となっており、一時的な支援ではなく親や子どもたちを長期にわたり継続してサポートする必要がありますこともわかりました。(2015平成27年12月、当センター調べ)

外国人住民も日本 社会や地域の 担い手に…

このような状況に当事者である西淀川区に住む外国人住民も声をあげ、ブラジル、ペルー、

ひとりひとりの力を発揮し、 地域の未来を創る

日本社会では少子高齢化に伴い、地域活動の担い手不足や地方地域経済を支える労働力人口が減少していくという課題を抱えています。地域に住む外国人にルーツをもつ子どもたち

多文化共生社会をめざして

私たち多文化共生センターの前身は、阪神淡路大震災発生の翌日から被災した外国人への電話による多言語での情報提供を行った「外国人地震情報センター」です。その活動の中から見えてきたものは、外国人住民が多くいるという事実でした。以後、「基本的な人権の尊重」「少数者の力づけ」「社会へのアプローチ」の3つの



ペルー出身のママが作ったデコレーション(区民まつり多文化共生ブース)

西淀川区に住む外国に ルーツをもつ人たち

方向性に基づき、外国人住民のニーズに応えた活動を、一人ひとりのボランティアの主体性を大切にしながら進めてきました。総務省が「地域における多文化共生推進プラン」を発表してまもなく10年を迎えます。この間社会はどのような変化を見せたのでしょうか。

日本の在留外国人数は2014(平成26)年末で約212万人(法務省入国管理局)、その中でも永住資格を持つ人は半数を超え、外国人の日本での生活の長期化が一段と進んでいます。日本での生活が長期化するに伴い、日本で子どもが生まれるおよび本国から子どもをよび寄せるケースが増加し外国にルーツをもつ子どもたちも増えていきます。日本語指導を要する児童生徒数はこの10年間で1.6倍という高い増加率を示しています(文部科学省、2014年)。大阪市西淀川区は、非漢字圏で



福駅前にあるフィリピン雑貨店「ピノイサリスストア」

も、もちろん近い将来日本社会を担う一員となります。彼らが抱える課題を解決し、外国人住民や外国にルーツをもつ子どもたちがより長く日本に住むことができると、言語文化を超えてひとりひとり自分の力を発揮できるような地域を築くことは多様な地域の担い手を生み、地域の未来を創っていくことに直結します。



外国人住民と日本人住民の交流会

私たちはそのような未来の実現に向けて日々の活動に取り組んでいきたいと思っています。

西淀川 多文化の子どもたちへの学習支援教室 ご寄付のお願い

外国にルーツをもつ子どもたちの中には、日本語が十分にわからないまま学校生活を送り、高校進学を諦める子もいます。けれど、地域でも日本語や勉強を教えてくれる場所があれば、自分らしく輝ける可能性を持っています。私たちは、みんなの笑顔を取り戻し、「学び」を諦めず、自分らしく輝いて生き抜く力を育むために『106人の子どもたちの学習支援教室プロジェクト』を立ち上げました。1年間の教室を運営するために、200万円のお金が必要です。ひとりでも多くの子どもが勉強できるように、ひとりでも多くの子どもが自分に自信をもてるように。みなさまのお力をお貸しください。

■お問合せ先
(特活)多文化共生センター大阪
TEL 06-6390-8201 FAX06-6195-8812
E-mail osaka@tabunka.jp



忙中筆

子供たちの自然体験について

西淀川区に関わり始めたきっかけ



初めてみた菜の花畑にびっくり! ニシヨドガワ ノラシゴトの参加者(2015.4.11)

私は元々京都(長岡京)の人間で、西淀川区には縁もゆかりもなかったんです。

大学生の時、今働いている会社なのですが、浜田化学株式会社の岡野嘉市社長に出会いました。廃油回収、処理業者として関西では大きいシェアを持つ会社で、リサイクル業者というこ

ともあり、環境改善に力を入れている会社なんです。そこで「エコでつながる西淀川推進協議会」という協議会活動を行っていることを社長から聞きまして。「尼崎に本社があるのに、何の関係があるんだろう?」と思っていたのですが、よくよく聞いてみると、社長の地元だったんですね。その協議会内で「菜の花プロジェクト」という活動イベントがあったのが、そこに参加し始めたのが、西淀川区に関わり始めたきっかけです。

次の年には、浜田化学社員兼、「エコでつながる西淀川推進協議会 事務局長」という肩書きをいただきました。丁度、あおぞら財団さんが持っていた事

務局を、浜田化学に移すときだったんですね。今でも荷が重いななんて思っていますが(笑)それでもここで経験したことは、何にも代えがたい貴重なものです。

西淀川の子供たちにしてほしいこと

菜の花栽培のイベントは、子供たちと、その家族がメインのイベントです。西淀川区は結構都会なので(田舎者なので)よりそう思います)自然と戯れる場所って案外少ない気がします。私たちの世代ではまだギリギリ、山で虫捕りとか、農家の手伝いとか、裏山で笹堀りとか、自然体験をする機会がたぐさ



勝野 高典(かつの たかのり)

プロフィール: 京都府出身。立命館大学法学部法学科卒業。大学生時に「エコでつながる西淀川推進協議会」の構成員である、浜田化学でアルバイト。その後正社員となり、協議会の事務局長になる。西淀川区内のイベント、「ものづくりまつり」ではアフロをかぶってDJとして活躍。

んありました。今の子供たちの多くは、こういった当たり前だった経験を、大人が提供しなければできない環境にいると思うんです。将来、自然はどんどん少なくなっていくのは間違いありません。だからこそ、この協議会で行っている菜の花のイベントのような自然体験イベントは、これからの時代、できる間にやっておくべき行事ですし、それは西淀川に限った話ではありません。子供たちにとって大事なものは、実際に経験してみること。触って感じることです。ネットで検索したらなんでもわかってしまう現代だからこそ、実体験というのは、何よりの学習だと私は考えます。

今も昔も住民がまちづくり 中島大水道まち歩きマップ完成!!

今も昔も住民がまちづくり

まち歩きしませんか



中島大水道サロンでまち歩きなどの調査を重ね、「まち歩きマップ」を作成しました!
江戸時代から今にいたるまでの中島大水道の歴史や昔の写真、現在の水道跡を歩くための情報をまとめています。頒価200円で販売中!
また、このマップを活用したまち歩きイベントや学習会を開催しています。
お問い合わせは、あおぞら財団、またはECOまちネットワーク、よどがわまで!



サロンのメンバーの一人、笑福亭仁勇さんの案内で水道跡を歩きました(2015.5.31)



【今も昔も住民がまちづくり】
中島大水道まち歩きマップ
A4版、観音開き8ページ
頒価200円



中島大水道は、江戸時代に掘られた農業用排水路です。東淀川区から淀川にたどり着くまで、中島大水道跡全長9.5キロを実際に歩けるよう、マップを作りました。



雑貨のお店前にも展示(Tickle。)

歌島橋交差点地下道に鯉出現 (段ボールアート)

ママとキッズの可愛スペース in Puれいは〜つ

傘ペインティング in 大野川緑陰道路

招待作家Aju作品が並ぶ 工房ギャラリー

「懐かしシネマ上映会」 in 野里住吉神社

野里本町商店街が雑貨マーケットに

絵画と沖縄三線ライブ in 喫茶ナニワ

みまアート報告データ

イベント:11/7(土)・8(日)	主催:みまアート実行委員会
アート展示:10/26(月)~11/8(日)	後援:西淀川区役所
全体参加者数:のべ1800人	協賛:一信ツヤパン、江崎グリコ株式会社、スモカ歯磨株式会社、 太平段ボール工業株式会社、野村興産株式会社、Puれいは〜つ、 毎日新聞西淀川販売所、セブンイレブン西淀川税務署前店、 あおぞら財団、株式会社PTS
スタンプラリー参加者:約550人	協力:西宗寺、野里本町商店街、野里住吉神社
参加アーティスト:90人	事務局:公益財団法人公害地域再生センター(あおぞら財団)
作品数:164点	公式ホームページ http://miteart.blogspot.jp/
展示拠点:32ヶ所(うちスタンプラリー拠点は13ヶ所)	フェイスブック http://www.facebook.com/miteart
出店:21店	ツイッター http://twitter.com/miteart

御幣島がアートにあふれる2日間

みてアート 2015 ~御幣島芸術祭 みんながアートする日~

2015年11月7(土)と8日(日)の二日間にわたって、今年で3回目となる「みてアート2015~みんながアートする日」を開催しました(主催:みてアート実行委員会)。ものづくりの街・西淀川区は、かつて大気汚染などが深刻化し、「公害のまち」とも呼ばれましたが、今は工場と住宅が共生し、まちの風景も変わりつつあります。そんな中、まちを元気にすることをめざして、普段アートとは縁のない商店、事業所、駐車場などをギャラリーやライブハウスに変身させ、みんながまちのことを考える機会として「ニシヨドでみんながアートする日=みてアート」を2日間に渡って開催しました。2日目はまたしても雨となりましたが、昨年以上に多くの方々に来場いただきました。今回は、開催期間前から、地元企業さんの協力を得て、段ボールやドラム缶を活用したアート



事前ワークショップ in 好文学園女子高等学校(9月)

ワークショップを開催したり、野里本町商店街やお店・団体が会場やイベントとして初めて参加いただいたり、懐かしの映画を見たり、音楽を楽しむ「みてナイト」を開催したり、新たな企画にチャレンジしました。参加者の方からは、「毎年楽しみにしています!ありがとうございます♡」、「子どもも大人も楽しめた」、「友達にお誘いを受け西淀川内を歩き良き一日でした」、「つくるのがよかったです」などの感想をいただきました。ただ、展示作品の取り扱いに一部不備があり、アーティストの方にご迷惑をおかけしたこともあり、この場を借りて改めてお詫び申し上げます。その他、運営上いたらない点もあり、今後への課題にしたいと思います。今後については、こうした課題も踏まえ、みなさまからの感想や意見、アイデアをもとに、実行委員会で検討する予定です。

最後に、出品やご参加いただいたアーティスト、区民のみなさん、会場を提供いただいたみなさん、準備や当日の運営、撤収作業にご協力いただいたボランティアスタッフのみなさんに感謝いたします。(藤)

喫茶ナニワ

「れいこー、ちよーだい」って、わ〜、懐かしい言い方。これ、関西でのアイスコーヒーの別名です。その「ナニワの冷珈(れいこー)」を昭和23年創業以来、西淀川区御幣島で作り続けているナニワコーヒーの直売店が「喫茶ナニワ」です。冷珈はもちろん、コーヒー豆各種あり。ホットコーヒーのおかわり自由がうれしいサンドイッチセットはフルーツ入りヨーグルトや手づくりラスクが付いて570円。定休日の日曜日には、沖縄三線教室が開催されています。



所 西淀川区歌島3-3-4
休 日・月・祝
営 9:00-17:00
☎ 06-6471-1066
HP <http://www.naniwacoffee.co.jp>

(イラスト:とりやまひろこ)

Tickle。-ティカ-

昨年10月にオープンしたばかりの雑貨店。35人の作家さんの雑貨や洋服などの商品が両サイドの壁と真ん中の机に、い〜っはい!並んでいるので、いつまでも見ていたい気分になります。床や壁などの内装は、仲間たちとDIYで作られました。こだわりの木製「キッズハウス」は、子どもたちに大人気。「自分が一番のしんでいます」とティカさん。ぜひ会いに行ってみてください。



所 西淀川区御幣島2-7-5
休 不定期
営 11:00~18:00
☎ 080-4024-0275
HP <http://ameblo.jp/nayutayu/>

burari gururi
ぶらりとぐるりと
第16回 西淀川めぐり
ありがとう みまアート(御幣島芸術祭)編
「みてアート2015」に初めて参加いただいたお店です。老舗のナニワさんとニューフェイスのティカさん。どちらも地元の人たちに愛されるお店です。(鏡)

手づくり体験コーナーは大人気でした(西淀川区役所)



「まちハコライブ」 in マルモットステーション



インフォメーションあおぞらイコバには、ライブペイント「みんなで参加しよう! 招待作家「淀川テクニク」の「花輪」展示 ドラム缶アート」



西淀川記憶あつめ隊

Vol.15

「昔、ここに吉永小百合が来たんですよ。そんなときは、すごい人だからやった」。野里本町商店街で1953(昭和28)年創業の「御菓子司 吉野家」を営む二代目主人・中谷さんの一言が「2日限りの雑貨マーケット」の開催、映画『若草物語』の上映へとつながっていききました。2015年秋、みてアート2015(御幣島芸術祭)のできごとです。



中谷 克昭さん

2015年11月27日
聞き取り

◆今、野里本町商店街はシャッターが閉まっているお店が多く、マンションや戸建て住宅が商店街の通りに面して建っていますよ。かつては、どんな商店街だったのですか？

阪神国道線の路面電車の駅が、商店街入口すぐの国道2号沿いであって、駅前商店街として、にぎわっていたなあ。商店街のまわりには映画館が4つもあった。子どものころは、知った大人に内緒でよう入れてもらった。とった。工場で働いている人が仕事帰りに一杯やる飲み屋とか、パチンコ屋とかが、よくあったわ。

◆吉永小百合が映画のロケでここに来たというの？

「若草物語」という日活の映画で、吉



映画『若草物語』上映会のポスター(みてアート2015)

永小百合のほかに、吉川いづみ、浅岡ルリ子、和泉雅子という、女優が出てた映画。1964(昭和39)年のことで、当時私は高校生2年生。ロケの時は、吉永小百合を見に、ものすごい人だかりができてた。映画には、野里住吉神社が写っているけど、ほかに、屋上でロケをしている場面があって、あれは、姫里にあったホテルの屋上やないかと思う。

◆1964(昭和39)年は東京オリンピックの年ですが、どんな時代でしたか？

当時は集団就職で、ここ「吉野家」でも毎年一人、富山や石川、鹿児島、宮崎などから出て来た若者を雇っていた。店舗の奥2階に従業員が住めるように

なっていて、家族を含めて12人ぐらいで生活していったよ。女中さんもあって、母親は店のことがあるから、女中さんが家のことをやっていた。夕食の順番は、最初はおやじから。おやじがピフテキでも、子どもや従業員は、トンテキや！とにかく活気があって、みんな生きるのに一杯。

◆11月7日と8日、みてアート2015(御幣島芸術祭)のイベントとして、商店街のシャッターが閉まっているお店の前に12店舗の「雑貨マーケット」が出店しました。7日の夜には『若草物語』を野里住吉神社の社務所で上映し、たくさんの方が見に来られました。最初、「みてアート」の話を聞いたときは、人通りが少ないの



で、ちょっと無理かなあと思っただけ。スタッフの熱意を感じてやろうと思った。

イベント当日はたくさんの方が来てくれて、よかったです。昔のにぎわいが戻ったみたいだった。うちこも「みたらしだん」が完売やったで(笑)。

商店街はどの店も後継ぎがないのが深刻な問題。以前にぎわいを取り戻すのは難しいかもしれないけど、やれることは、やろうと思うよ。

みてアート2015(御幣島芸術祭)は、西淀川区御幣島周辺をエリアにしたアートイベントで、2013年から毎年1回開催し、昨年ははじめて野里本町商店街が会場の一つとなりました。詳しくは本紙p.9。

第2回 よそものが釜石に行く。

皆さんは、観光名所でガイドを依頼したこと、ありますか？僕は「依頼しない派」だったのですが、釜石に来て「ガイドは面白い！」と意識が変わりました。連載2回目は、釜石ボランティアガイド会をご紹介します。2002(平成14)年発足、市内出身者を中心に28名が登録し、昨年は約13,000人をガイドしました。メインテーマは「震災」「鉄」の2つです。東日本大震災以降、当時の様子や現状を知ろうと訪れる方が多くなり、震災ガイドを開始。三陸では明治・昭和・平成と過去3回大きな地震・津波の被害に遭っており、ガイドは震災の風化防止にも貢献しています。

も数名おり、話す内容にも自然と熱が入ります。ガイド会での会合時、江戸時代後期の製鉄の様子がわかる絵巻を見ていて、湯出し口(高炉でできた鉄を取り出す場所)で働く人々だけが裸足だと気づきました。当時の人の足の裏は丈夫だった？身分が低い人がその担当になったのでは？と、歴史、文化に詳しいガイド会メンバーと想像が広がりました。ここにパンフレットや掲示物だけでは感じる事ができない楽しさがあります。皆さんも一緒に釜石の文化・歴史を共有してみませんか。

鹿島 卓弥(かしま たくみ)
1983年生まれ。千葉県富津市出身。
広告代理店営業を経験。退社後に海外へバックパッカーの旅に出る。現在釜援隊として釜石観光物産協会で活動中。
釜援隊協議会(釜石リージョナルコーディネーター)
〒026-0021 岩手県釜石市只越町3-9-13 釜石市役所内
TEL 0193-22-8600 FAX 0193-55-6699
釜援隊公式サイト: <http://kamaentai.org/>
釜石まるごと観光Navi かまなび公式サイト: <http://kamaishi-kankou.sakura.ne.jp/>



2つ目のテーマ「鉄」は、2015年7月に世界文化遺産となった「明治日本産業革命遺産」のひとつ橋野鉄鉱山ガイドです。近代化の礎となった洋式高炉跡をガイドするメンバーには新日鉄住金OB

見えない空気を見てみよう 「ソラダス2016」調査(5月)に参加しませんか？



スー・ハー、スー・ハー、空気が肺に入り込み、酸素が体に行き渡ること、私たちは生きている。空気は見えないけど、水や食べ物と同じように大切なもの。そんな空気が汚れていたら、私たちは病気になってしまう。

大気汚染が健康や生命に深刻な影響を与えることは、様々な研究で明らかにされてきました。環境省の調査結果(平成25年度環境保健サーベイランス調査※1)でも、大気汚染(SPM、NO₂、NO_x)とぜん息の発症に有意な関連性が認められました。平成8年から始めた同調査でNO₂の健康影響を認めたのは初めてです(昨年12月発表)。

日本の大気汚染は、1970年代の高度経済成長期に最もひどかったのですが、工場などでの対策が進み、だいぶきれいになりました。とはいえ、安心できないのは、PM2.5や光化学オキシダント等は未だ環境基準を上回っている地域が多いこと。日本で最初にばい煙問題が深刻化した大阪では、今年も「ソラダス2016」調査が行われます。※2これは市民が大阪府全域で5月19-20日に、二酸化窒素(NO₂)の測定を行い、大気の状態を自ら知ろうというもの。ぜひ参加して、見えない空気を見てみよう。

※1 <http://www.env.go.jp/press/101081.html>
※2 <http://oskougai.com/modules/maincontents/category0006.html>

ありがとうございます

(2015年11月 敬称略・順不同)

- 入会
野上 睦美
- 寄附・寄贈者
柏原 誠
川崎 美榮子

緑道散歩



あおぞら財団前の五叉路の交差点は「歌島橋交差点」といいます。最初はどこに歌島橋があるのと思っていました。その橋は、大野側緑陰道路にかかっている橋なんです。欄干の文字、読めますか？

スタッフツイッター 編集後記

特集の取材で身に沁みしたのは多文化の子どもたちの笑顔です。ここ数年、日本ではヘイトスピーチという聞くに堪えない差別発言を街頭やネットで繰り返す人たちがいます。ちゃんと直接出会って交流したら「〇〇人は殺せ！」なんて、街頭で叫んだりできないと思うのです。誰でも安心して笑顔で暮らせるまちにしたいです。

りべら No.139 2016年2月号(季刊1日、年4回発行)

発行所:公益財団法人公害地域再生センター(あおぞら財団)
編集人:栗本知子
〒555-0013 大阪市西淀川区千舟1-1-1あおぞらビル4階
TEL 06-6475-8885 FAX 06-6478-5885
http://aozora.or.jp/ webmaster@aozora.or.jp
デザイン:(株)パード・デザインハウス
会員の購読料は会費に含まれています。
本誌掲載記事の無断転載を禁じます。



退団のご挨拶



田代 優秋

このたび2016年1月末日をもってあおぞら財団を退職することとなりました。これまでありがとうございました。2014年4月に着任してから2年弱と短い期間かつ、年度途中での退職となり、共に仕事をしてきたスタッフ、患者の皆様、地域の皆様にご迷惑をお掛けして申し訳ありません。

これまで自然いっぱいの徳島での暮らしから、大都会大阪に引っ越し、暮らしによりやく慣れ始めたところでした。仕事も、自分が担当する業務や活動は「現場、実践、最前線」という言葉がぴったりで、充実してきたところでした。ただ、同時に「環境が保全される社会の仕組みとは何か?」「市民協働のあり方は?」という問いが立ち、その答えを体系的に整理したい、発展させる研究をしてみたいと考える自分もまたありました。これまでの自分のスタイルが、現場での実践活動を通じて科学的な知見を創造するものだったので、その実践と研究(知的生産)の間でとても悩みました。そんな時、とある方から頂いた「人間万事塞翁が馬」という言葉にとっても勇気づけられました。心の葛藤や迷いや不安を肯定しながら挑戦する人生でありたいと思いました。今でも何が人生の良い選択なのかわかりませんが、縁あって和歌山大学で活躍の機会を頂きましたので挑戦してみようと思いました。

今後は、あおぞら財団の職員としてではありませんが、引き続き共に現場で悩みながら実践する活動を続けていきたいと思っています。勝手ではありますが、これまでのお礼とともに、今後もよろしくお願い申し上げます。



第2弾

あおぞら財団に「一言!」アンケート結果発表

2015年9月号(137号)で告知しました第2段アンケート「あおぞら財団に一言!」にお寄せいただいたご意見をご報告します。2回のアンケートにご協力いただき、ありがとうございました。アンケート結果を今後のあおぞら財団の活動に役立てていきたいと思えます。なお、あおぞら財団へのご意見はいつでもお気軽にお寄せください。『りべら』『読者の声』への投稿もお待ちしています!

●環境をキーワードに、市民と一体になった活動・教育支援等を通じた環境啓蒙活動・地域に根差した研究提言活動を行っている」と理解しています。活動は、肩ひじ張らないフレンドリーな印象があります。

●公害に関係する人たちのリーダー的存在!なくてはならない存在だと思えます。

●環境問題、食育など出張教育をもっとやって欲しい。学校では出来ない様な教材を特徴を捉えて揃えるなど! ボランティア募集しては?



広告

ディサービスセンター

あおぞら苑



2006年10月1日にディサービスセンターあおぞら苑は産声を上げました。西淀川公害裁判で四半世紀命をかけて闘った患者さんや家族のみなさまの思いが、ひとつの形になったのがディサービスセンターあおぞら苑です。公害患者さんも高齢になり日々の生活を援助するために、また地域のみなさまが誰でも利用でき、「西淀川に住み続けて良かった。」と思えるようにとの思いがたくさん詰まった場所にしたいと思い設立しました。



あおぞら御膳



あおぞらの湯

【お問い合わせ】
 TEL : 06-6475-0111 FAX : 06-6475-0114
 URL : http://aozoraen.com/
 運営 : NPO法人西淀川福祉・健康ネットワーク

◆あおぞら苑(事業所番号 2771001076)
 〒555-0032 大阪市西淀川区大和田5丁目7番14号
 開所曜日:月曜日~土曜日(祝日は開所) 利用人数: 1日18人

◆あおぞら苑II(事業所番号 2771001407)
 〒555-0031 大阪市西淀川区出来島1丁目2番4号
 開所曜日:月曜日~金曜日 利用人数: 1日20人

Hamada Kagaku 広告

廃棄物でお困りなら 浜田化学のコンシェルジュに お任せください



廃食油
リサイクル

使い終わった廃食油



食品残渣
リサイクル

加工中に発生した食品残渣



廃棄物
リサイクル

その他の廃棄物

お客様に最適なメニューをご提案いたします。

詳しくはホームページをご覧ください。 [浜田化学 コンシェルジュ](#) 検索

浜田化学株式会社 ☎06-6411-3457 <http://www.hamadakagaku.co.jp>

西淀川菜の花 プロジェクト

~エコでつながる西淀川~

【廃油回収量】
総合計31,713ℓ
 (2009年7月から2016年1月まで)

2014年度	7,064ℓ
2013年度	7,344ℓ
2012年度	6,472ℓ
2011年度	3,986ℓ
2010年度	2,509ℓ
2009年度	1,517ℓ

現在西淀川区内外55箇所で、廃油を回収しています。回収団体募集中。詳しくはあおぞら財団まで。

エコでつながる西淀川推進協議会
06-6732-9658

〈広告募集〉企業・団体・個人の皆さま

あおぞら財団の活動周知のため
「りべら」発行部数増にご協力ください。

【りべら広告掲載費】
 中面1/9頁:1万円/回
 中面1/3頁:3万円/回
 中面 全面:9万円/回
 お問い合わせ先:あおぞら財団まで
 TEL06-6475-8885

「りべら」は、あおぞら財団が取り組む環境活動やまちの情報を伝える機関紙として、年4回(季刊)発行し、あおぞら財団会員様をはじめ、公共施設・店舗・各種施設にて配布しています。あおぞら財団の活動拠点である大阪市西淀川区を中心に、環境問題や地域再生に取り組む様々な方々に登場いただき、環境の取り組みやまちづくり活動の輪をつなぎ、広げていきたいと思えます。

現在、より多くの方に読んでいただけるよう、発行部数増をめざしています。(1500部→3000部)。
あおぞら財団の活動趣旨に賛同いただき、ともに環境活動に取り組んでいただける企業・団体・個人の皆さまから「広告費」という形での協賛をお願いできればと思います。いただいた資金は、本「りべら」の紙面の充実・印刷費として活用させていただきます。あわせて定期購読、会員も募集中です。どうぞ、ご協力をお願いします。

